

第2学年2組 国語科学習指導案

令和7年11月11日（火）第5校時

- 1 単元名・教材名 じゅんじょやまとまりに気をつけて読み、つたえるためにわかりやすく書こう
「紙コップ花火の作り方／おもちゃの作り方をせつめいしよう」

2 児童の実態と本単元の意図

児童の実態については、当日配布いたします。

（2）教材観

本教材は、生活科の内容（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を行う。」と教科横断的に関わりをもって、児童に目的意識をもたせることができる教材である。

まず、「何を」「どのように」学ぶのかを児童の思いに寄り添いながら確認することで、教材文を読む意図や、国語で表現をする相手を想定させながら「何ができるようになるのか」を明らかにする。

次に、教材文を読むことで文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができるようにする。実際の生活場面においても、文章を引用して説明に生かすことがあることから、児童の生活に根ざしている指導事項であるといえる。

その上で、おもちゃの作り方を説明する文章を書く言語活動を行う。児童は語と語や文と文との続き方に注意し、内容のまとまりがわかるような書き表し方を工夫して文章に表す。多様な相手に自身のおもちゃの作り方や、そのよさを伝えるという児童の目的を果たすことができるような教材の構成となっている。

さらに、文章を書く際にさまざまな情報の関係について理解し、適切に情報を選び出すことができるようになることをねらいとする。そして、身近なことを表す語句を適切に用いて表現する力が定着するようになる。

◆教材の系統性

1 年	【おおきくなった】	・観察したものから気付いたことを記録する文章を書く。 (思・判・表B(1)ア)
	【すきなこと、なあに】	・語と語や文と文とのつながりに注意して、友達に自分が好きなことを紹介する文章を書く。 (思・判・表B(1)ウ)
	【うみのかくれんぼ】	・読み取ったことから重要な語や文を選び出し、カードにまとめ交流する。 (思・判・表C(1)ウ)
	【じどう車くらべ／じどう車ずかんをつくろう】	・事柄の順序など情報と情報の関係について理解して文章の内容を捉える。 (知・技(2)ア) ・事柄の順序に従って、簡単な構成で文章を書く。 (思・判・表B(1)イ)
	【どうぶつの赤ちゃん】	・共通・相違などの情報と情報との関係について理解して文章の内容を捉える。 (知・技(2)ア) ・捉えた内容から気付いたことを発表する。 (思・判・表C(1)オ・カ)
2 年	【たんぽぽのちえ／じゅんじょ】	・事柄の順序など情報と情報の関係について理解して文章の内容を捉える。 (知・技(2)ア) ・捉えた内容をもとに自身の感想を書く。 (思・判・表C(1)オ)
	【かんさつ名人になろう】	・観察したものから見付けることや気付いたことを記録する文章を書く。 (思・判・表B(1)ア)
	【こんなもの、見つけたよ】	・経験したことから、文章の組み立てを考え、「はじめ」「中」「おわり」の構成で文章を書く。 (思・判・表B(1)イ)
3 年	【文様／こまを楽しむ／全体と中心】	・全体と中心といった文章中の情報と情報の関係について捉えて読む。 (知・技(2)ア)
	【仕事のくふう、見つけたよ】	・テーマに沿って調べ、伝えたいことを明確にして文章を書く。 (思・判・表B(1)ア)
	【すがたをかえる大豆／食べ物のひみつを教えます】	・「はじめ」「中」「おわり」の構成を踏まえ文章を読み、中心となる語や文を捉え

		る。 (思・判・表C(1)ウ) ・段落相互の関係に注意して、設定したテーマに沿って文章を書く。 (思・判・表B(1)イ)
--	--	---

(3) 指導観

本単元で扱う学習指導要領上の指導事項は以下の通りとした。

◆本単元で扱う学習指導要領上の指導事項

〈知識及び技能〉 (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
〈思考力、判断力、表現力等〉 B 書くこと (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 C 読むこと (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

本単元では、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して文章を書くという、自身のゴール像を明確にして学習過程を設定することが重要である。

本単元における重点的な指導事項は、「語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。【思・判・表B(1)ウ】」としている。既習事項である「事柄の順序など情報と情報の関係について理解して文章の内容を捉える。【知・技(2)ア】」を生かして、体験的に課題を捉えることで学びに向かう力を高める。その上で、適切に表現することができる資質・能力を育成することをねらいとしている。そのために、教材文を読んで捉えた内容をもとに実際におもちゃを作るといった受動的な視点、説明する文章を書いて、同学年他学級の児童におもちゃを作ってもらおうという能動的な視点の両者に立った学習活動を行う。そして、よりよい文章表現にするために、文章を読み返したり、自他の表現のよさに気付いたりすることができるようにする。

また、相手意識をもち、他の児童にとってよりよく伝えるための表現の仕方を調

整したり、試行錯誤しながら粘り強く学びに向かったりすることのできる態度を養っていきたい。身に付けたことが、「A 話すこと・聞くこと」や「C 読むこと」の指導事項においても総合的に生かされるよう、言語活動において、指導事項を適切に指導する。

3 単元の目標

- (1) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〈知識及び技能〉(2) ア
- (2) 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。〈知識及び技能〉(1) オ
- (3) 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。〈思考力、判断力、表現力等〉C (1) ア
- (4) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。〈思考力、判断力、表現力等〉C (1) ウ
- (5) 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉B (1) ウ
- (6) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

文章の中から重要な部分を読み取りながら内容を捉え、それを生かして、内容のまとまりを踏まえて書き表し方を工夫し、おもちゃの作り方を説明する文章を書く。

(関連 言語活動例C (2) ア・B (2) ア)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、	①「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C (1) ア) ②「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考	①進んで文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、事柄の順序など情報と情報との関係を考えながら、学習の見通しをもって、おもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

語彙を豊かにしている。 ((2) ア) ②共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ((1) オ)	えて選び出している。 (C (1) ウ) ③「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B (1) ウ)	
--	--	--

6 指導と評価の計画

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○生活の中で問題意識を想起する。 ○二つの教材を通して、「何を」「どのように」学習するのかを確かめ、「何ができるようになるか」見通しをもつ。	○問題意識の想起 ○単元の見通し ○経験の想起 ○単元全体の学習計画	○生活科でおもちゃを作った経験について想起させ、単元の学習に関心をもたせる。 ○学習の見通しをもたせ、学習内容が身に付くためにどのような活動をすべきか、児童とともに考える。
2	○内容のまとまりを捉えながら教材文を読む。	○内容のまとまりで段落を分けること ○順序を表す言葉	○段落を分けていない本文を示し、既習を生かして内容のまとまりごとに段落を分ける活動を行う。 ○事柄の順序を表す言葉に注目させ、語彙の習得を促す。 【知識・技能】① <u>観察・ワークシート</u> ・内容のまとまりごとに使われている語句に注目させ、語句の役割を理解しているか確認する。
3	○文章を参考にしながら紙コップ花火を作る。	○体験を踏まえた文章の読解	○生活科の学習経験を生かし、あらかじめ必要な用具等を準備しておく。 ○教師も一緒に取り組み、モデル

	○紙コップ花火を作る順序を捉えるときに気を付けた言葉を取り上げる。	○順序を表す語彙の習得	を示すことで多くの児童が興味をもてるようにする。 ○手順や参考資料の通りに作成するよさに気付かせる。 ○内容を具体的に捉えることのできる語句に着目させる。 【思考・判断・表現】① 観察・ワークシート ・事柄の順序を捉えながら文章の内容の大体を読み取ることができているか確認する。
4	○文章と資料の対応から、時間や事柄の順序について捉えながら読む。	○時間的な順序や事柄の順序を捉えながら読むこと	○段落と段落のつながり、資料とのつながりを踏まえながら、文章の大体について捉えさせる。 ○ICT教材を適切に利用できているか留意する。 【知識・技能】② 観察・ワークシート(ICT) ・製作時の手順を踏まえ、文章の内容の順序、資料とのつながりについて理解しているかを確認する。
5	○捉えた文章の特徴や、実際に紙コップ花火を作った体験から、筆者の説明の仕方の工夫をまとめる。	○重要な語や文の抽出 ○文章の内容と体験を結びつけた自身の感想のまとめ	○製作時に分かりやすかった点に注目させる。 ○分かりやすい説明について取り上げ、筆者の説明の仕方の工夫に気付かせる。 【思考・判断・表現】② 観察・ワークシート ・筆者の説明の仕方の工夫に気付かせ、必要な語や文を抽出しているか確認する。
6	○筆者の説明の工夫について交流し、伝え合う。 ○文章を読んで習得した知識を確認する。	○文章を読んで分かったことの共有	○文章を読んで分かったことについて、他者の意見との共通点や相違点について捉えさせる。 【主体的に学習に取り組む態度】① 観察・ノート ・情報と情報との関係について

			気付いたことについて進んで交流し、他者の考えを取り入れながら学んだことを整理しているか確認する。
7	○作り方の説明をするおもちゃを決定する。 ○誰に向けて説明するかを決定する。 ○必要な材料と道具を確かめ、文章の冒頭に書く。	○目的や意図に応じた題材の決定 ○集めた情報の整理	○生活科の学習経験を生かし、必要な用具等を準備するよう伝える。 ○同学年の他学級に向けて伝えることで、実態にあった語句や説明の仕方の習得を促す。 ○児童が選択したおもちゃのモデルを次時まで作成し、具体物を伴った体験的な学習を促す。 【主体的に学習に取り組む態度】① 観察・ノート・ワークシート ・活動の見通しをもち、言葉を用いて適切に表現するよさに気付いているか確認する。
8・9	○どんな順序で作るかを確認する。 ○おもちゃ作りの行程を3～4つに分け、イラストや写真を用い、資料を作る。 ○資料と対応した文章のカードを作る。	○集めた情報の整理 ○段落ごとの内容の作成 ○伝えたい事柄の明確化	○説明をするために必要な事柄は何かを挙げさせ、伝えたい事柄を明らかにさせる。 ○活動のモデルを示し、視覚的に学習活動を想起させる。 ○ICT教材を適切に利用できているか留意する。 【知識・技能】② 観察・ワークシート(ICT) ・伝えたい内容ごとのまとまりや順序を意識し、必要な事柄を表すことができているか確認する。
10	○カードを並べ替え、文章の構成を考える。	○事柄の順序に沿った構成の検討	○事柄の順序を意識し、製作をする手順通りにカードを並び変えているか確認する。 ○ICT教材を適切に利用できているか留意する。 【知識・技能】② 観察・ワークシート(ICT)

			・事柄の順序に気を付け、適切に構成を検討できているかを確認する。
11 本時・12	○手順に応じて、どの順序を表す言葉を使うか考える。 ○「組み立て」カードをもとにおもちの作り方を説明する文章を書く。 ○自身の作成した文章を見直す。	○順序を表す語句の組み合わせ ○まとまりを意識した文章の書き表しかた ○文と文の続き方に注意した文章の書き表しかた	○順序を表す語句を適切に選ぶことができるよう、既習事項を確認し、見通しをもたせる。 ○「紙コップ花火の作り方」で習得した語句カードを引き出せるようにしておく。 ○完成した構成カードを用いて、文章に表せるよう、視覚的に捉えやすい教材を作成する。 【思考・判断・表現】③ 観察・ワークシート ・語と語、文と文とのつながりに気を付け、手順を捉えやすい文章が書けているか確認する。
13	○書いた文章を読み合い、興味をもった文章を読みながらおもちゃを作る。 ○相手の様子に合わせて、より分かりやすく文章を整える。	○体験を踏まえた文章の読解 ○他者の文章のよさに気付くこと ○相手意識をもち文章を直すこと	○あらかじめ用意しておいた材料や道具を用いて、説明文通りに作れるかという点に注目させる。 ○他学級児童とあらかじめペアを組んでおく。 【主体的に学習に取り組む態度】① 観察・ノート・ワークシート ・他者の説明文に興味をもち、積極的に言葉を活用して活動をしているかを確認する。
14	○整えた文章を読み返す。 ○相手の文章の工夫について感想を交流する。 ○学習を振り返る。	○他者の文章のよさに気付くこと ○自身の文章のよさを認識すること	○他者の文章の共通点、相違点からそのよさに気付くよう促す。 ○自身の文章のよさを、他者の文章をもとに客観的に気付くことができるよう促す。 【主体的に学習に取り組む態度】① 観察・ノート ・自他の文章のよさに気付き、単元を通して習得したこと

			や、今後の自分について振り返ることができるかどうか確認する。
--	--	--	--------------------------------

7 本時の学習指導（11／14時）

（1）目標

- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉B（1）ウ

（2）評価基準

- 「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 【思考・判断・表現】

（3）本時の展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時
1 前時までの学習を振り返る。		○前時までに作成した構成カードに必要な順序を表す言葉を想起させる。	3
2 本時の課題を確認する。		○児童の言葉をもとに設定する。	2
「組み立てカード」をつかって、ことばを組み合わせ、文しょうを組み立てよう。			
3 活動の見通しをもつ。 <期待される児童の反応> ・じゅんじょをあらわすことばをつかうとよい。 等		○内容のまとまりごとに作成されたカードを、順序を表す言葉を用いながら事柄の順序に従って接続することに気付かせる。	2
4 事柄の順序を示す書き出しの言葉を取り上げ、自身のカードに必要な言葉を抽出する。 <期待される児童の反応> ・まず／つぎに／それから／さいごに 等	○順序を示す語彙の活用	○語句を取り上げ、自身のカードに必要な語句を選び出すことができるようにする。	8
5 語句を組み合わせ、「組み立てカード」を完成させる。	○文章の構成の検討	○「組み立てカード」をもとにしながら、自身でおもちやを作れるかという視点で文章化する。	7
6 「組み立てカード」を	○文と文の続き	○文章作成のモデルを示しな	18

もとに、ワークシートに文章を作成する。 <期待される児童の反応> ・文しょうは「くわしく」「みじかく」書く。 ・まとまりごとにだんらくを分けて書く。 ・文しょうとしりょうにも、つながりがあるはずだ。等 7 本時の学習について自身のまとめを書く。	方に注意した書き表し方 ○内容のまとまりが分かる書き表し方 ○資料との対応の必要性への気付き ○課題に正対した学習内容に対するまとめ	がら、既習を生かし自力で活動できるよう促す。 ○文章作成が完成した児童から、「ポイントシート」をもとにグループの友達と教え合う。 【思考・判断・表現】② <u>観察・ワークシート</u> <u><評価方法></u> ・語と語、文と文とのつながりに気を付け、手順を捉えやすい文章が書けているか確認する。 <「努力を要する」状況 (C) への手立て> ・組み立てカードの内容と一緒に読み、順序やまとまりに注意してカードをもとに書くように助言する。 ○本時の学習課題を再度確認し、本時の学習を通して、何を学ぶことができたのかという視点でまとめさせる。	2
じゅんじょをあらわすことばをつかって、文しょうを組み立てる。			3
8 本時の活動について振り返る。 <期待される児童の振り返り> ・じゅんじょをあらわすことばをつかうと、せつめいが分かりやすいことに気づいた。 ・おもちゃを作るじゅんばんのとおり文しょうを組み立てるとよいと分かった。等	○活動の振り返り	○自身の本時の活動と、今後の見通しについて振り返る。	

(4) 板書計画

十一月十一日（火）

「組み立てカード」をつかって、ことばを組み合わせ、文しよを組み立てよう。

○じゅんじよを表すことば

まず

つぎに

それから

さいごに

おもちゃづくりのせつめい一

おもちゃづくりのせつめい二

おもちゃづくりのせつめい三

おもちゃづくりのせつめい四

じゅんじよをあらわすことばをつかって、文しよを組み立てる。

ふりかえり

※モニター

（活動4・5）

（活動6）



びよんコップの作り方
かぞ えてしこ
紙コップをつかった、びよんコップの作り方をせつめいします。
〈ざいりようどうぐ〉
・紙コップ ・わゴム ・ビニールテープ ・かざり
〈作り方〉
まず、ビニールテープをつかい、紙コップのはしに、わゴムをつけます。とれないように、テープでしっかりとめまします。
つぎに、わゴムをいちどひねり、はんたいがわのはしにテープでとめます。それから、おなじ大きさの紙コップをよいします。
さいごに、びよんびよんはねるどうぶつなどのもようやかざりをつけます。
〈あそび方〉
べつの紙コップに、わゴムをつけたコップをかぶせて、いきおいよく手をはなします。二人でどちらが遠くまでとぶかきそうと、楽しいですよ。